

株式会社Ay - 概要

一度途絶えた伝統的な織物を、現代のライフスタイルに合わせて最新技術で蘇らせる

【会社概要】

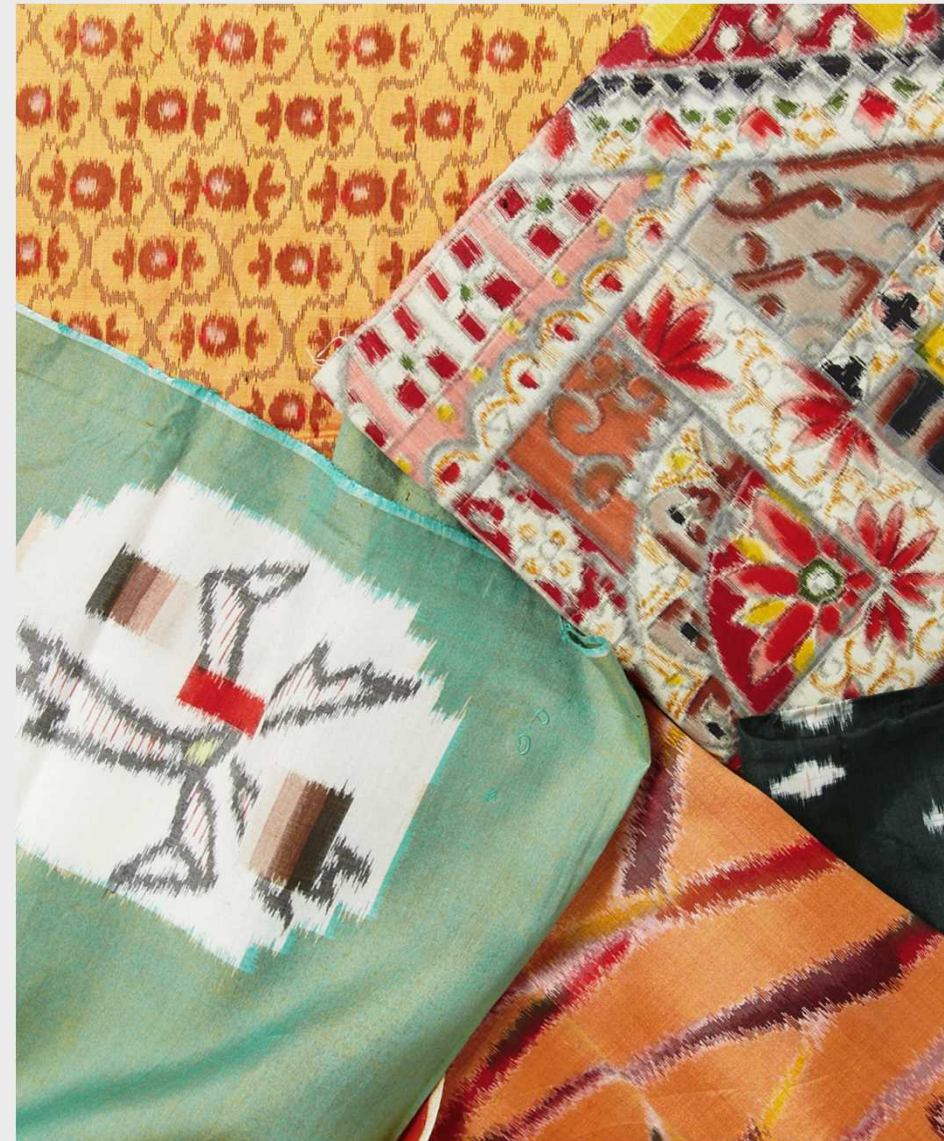
文化を織りなおすをミッションに紡がれた文化に向き合い、ほぐし、新たな価値を添えて発信するAy。カルチャーブランドAyの展開を中心に、地域企業様の商品企画・開発なども行う。

【現状・課題】

- ・ 故郷の名産品「伊勢崎銘仙」は作り手・後継者がおらず、文化が失われてしまう可能性がある。
- ・ 現在、伊勢崎銘仙を用いたアップサイクルの衣服を制作・販売しているが、残り使える布が少なくなっている。

【変革の方針】

- ・ 伊勢崎銘仙の特徴的な柄を残すべくデジタルアーカイブにして、新たな生地を作れるようにし、現代に合わせた衣服の形にする。
- ・ Ayとして、一つのアップサイクルブランドにとどまらず、ミッションである「文化を織りなおす」を体現し、その取り組み価値を伝え、共感してくれる人を増やしていく。



デジタルアーカイブで蘇らせた着物柄を用いた、新たな衣服「あいのぬの」



伊勢崎銘仙は、色鮮やかで遊び心あふれる着物です。かつてAy代表の村上が生まれ育った群馬県伊勢崎市は、この銘仙の産地でしたが、半世紀前にその伝統工芸は衰退し、後継者もおらず作り手がない状況となりました。

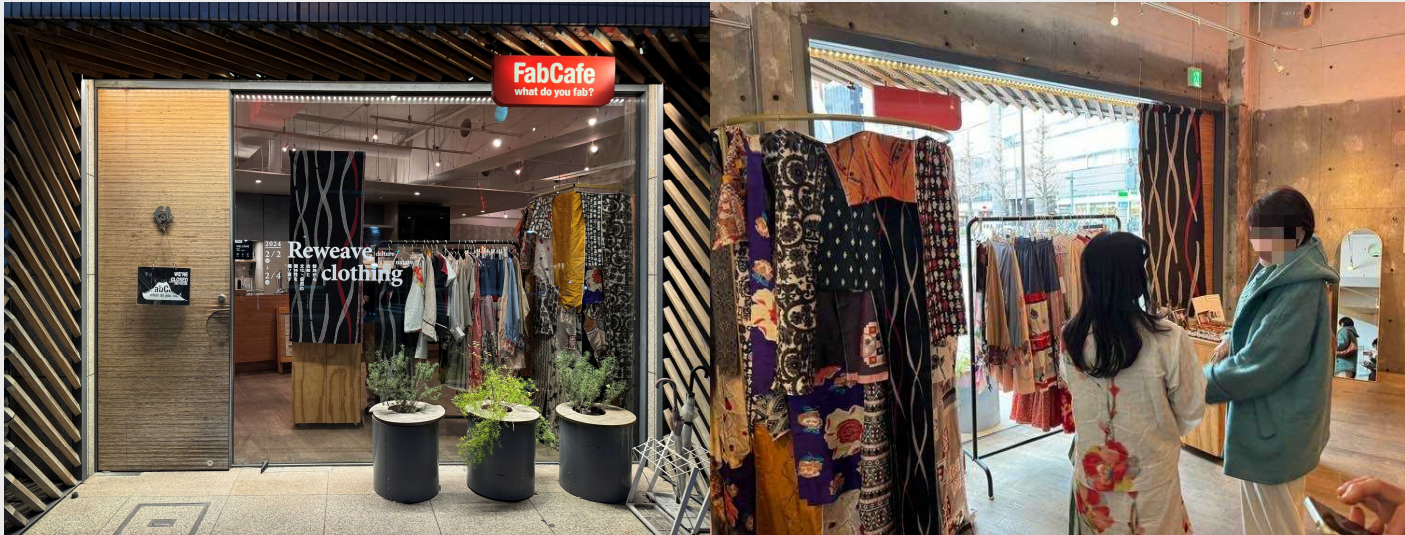
郷里の文化が失われつつある現状に哀しみを覚え、村上は銘仙のアップサイクルを通じて新たな衣服に生まれ変わらせるブランドAyを興しました。これまでの3年半、伊勢崎銘仙を使用したアップサイクル衣服を提供してきましたが、残念ながら銘仙の生産は困難となり、いずれは使えるものがなくなる危機に立ち向かっています。

そこで、24spring/summer collectionでは「あいのぬの」シリーズを披露いたします。銘仙の柄からインスピレーションを得て、現代技術でオリジナルテキスタイルを開発しました。これは銘仙そのものではなく、Ay独自の解釈とデザインによるものですが、銘仙の特徴的な柄を保ちながら新たな表現を試みました。

そのテキスタイルをAyらしいデザインで衣服に仕立て、立体感豊かなジャガード織りでワンピースを製作し、またプリント技術で銘仙の大胆な色使いを再現したセパレート浴衣などを生み出しました。



株式会社Ay - 価値を伝える取り組み



【価値を伝える取り組み】
Ayの活動や「あいのぬの」の取り組みを伝え、実際に顧客からフィードバックを得る場として、FabCafe Tokyo、FabCafe Kyotoにて展示を実施。

計8日間の展示を通じて、あいのぬのシリーズの反応調査および、販売を行い、以下の結果が得られた。

- ・ 社会が着物柄をデータ化し現代に甦らせるこの取り組みを前向きに捉えてくれる様子だった。（批判も生まれると思ったが予想外になかった）
- ・ 渋谷ではテキスタイルのデザインに惹かれて展示を見てくださいる方が多く、もの→背景という導入ができ、顧客になりうる可能性が高い印象を受けた。
- ・ 京都はものづくりの土地柄、協業できそうな工場の方などのつながりが生まれた。

